

外科後期研修プログラム

一般的臨床能力を養成するとともに、外科疾患（消化管、肝胆膵、呼吸器、乳腺、末梢血管）の正確な診断、適切な検査の指示と専門的な検査・治療および手術手技を修得し、外科専門医取得（日本外科学会に入会して満5年が必要）を目指す。

1 一般目標

すべての医師にとってコアとなる、一般的臨床能力を養成することを目標とする。

- (1) 医療記録の的確な記載が出来るようになる。
- (2) 外科疾患に関する診断法、検査法、手術方法など、より深い知識を修得する。
- (3) 患者・家族に対して、疾患・手術適応・手術方法・合併症などに関する適切なインフォームド・コンセントを行うことが出来るようになる。
- (4) 手術手技について正しく理解し、自らが正確に手術できる能力を身につける。
- (5) 外科専門医の取得を目指し、必須症例の手術件数および臨床研究を経験する（手術 350 例以上、うち術者 120 例以上、筆頭演者として学会発表または筆頭著者として論文発表）。

2 行動目標

初期研修で身につけた基本診療手技を育成し、さらに外科専門医として必須の知識・検査手技・手術手技を身につける。

- (1) 心肺蘇生法（気管内挿管も）を含む緊急処置を適切に行うことができる。
- (2) 外科的基本手技（輸液、輸血、IVH、抗生物質、制癌剤投与など）および手術手技（開腹術、開胸術、ドレナージ術、各種術式）について正しい知識を持ち、正しく実施できる。
- (3) 外科的診断法として放射線診断（胸腹部単純レントゲン写真、消化管 X 線検査、CT 検査、腹部血管造影、MRI 検査、シンチグラフィなど）および内視鏡診断（上下部内視鏡検査、内視鏡的逆行性肝胆膵管造影（ERCP）、気管支鏡検査など）について正しく理解し、十分な読影ができる。
- (4) 腹部などの超音波検査について正しく理解し、十分な読影ができる。
- (5) 外科的代表疾患（胃癌、大腸癌、胆石、虫垂炎、ヘルニア、自然気胸、肺良性腫瘍、乳癌、下肢静脈瘤など）の手術適応の決定をし、自ら術者を実践できる。
- (6) 専門的外科疾患（食道癌、肝癌、膵癌、肺癌、腹部大動脈瘤など）の手術適応の決定をし、自ら助手を経験できる。
- (7) 救急疾患（胸・腹部外傷、多発外傷、急性腹症など）の鑑別診断、手術適応、手術手技について理解し、修練できる。
- (8) 外科的基本態度（手術室でのチーム医療、術前カンファランスでの説明、他科に適切なタイミングでのコンサルタント、切除標本の取り扱いなど）修練できる。
- (9) 当院外科は種々の専門修練病院であるため、将来、外科専門医からさらにサブスペシャリストとして、消化器外科専門医、肝臓専門医、胸部外科専門医、呼吸器外科専門医などの取得を目指す（それぞれの学会に入会し 3～5 年間の専門修練病院での勤務が必要）。

3 施設認定状況

- * 臨床研修指定病院
- * 日本外科学会専門医制度修練施設
- * 日本消化器外科学会専門医修練施設
- * 日本呼吸器外科学会専門医制度関連施設
- * 日本胸部外科学会認定関連施設
- * 日本乳癌学会関連施設
- * 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
- * 日本消化器病学会専門医制度認定施設

4 指導体制

氏名	役職	専門資格	卒業年
森川 明男	副院長	日本外科学会（認定医・専門医） 日本乳癌学会（認定医） 検診マンモグラフィ読影認定医 日本静脈経腸栄養学会認定医	昭和60年
織井 崇	外科診療部長	日本外科学会（専門医・指導医） 日本消化器外科学会（専門医・指導医） 検診マンモグラフィ読影認定医 日本肝胆膵外科学会高度技術指導医 消化器癌外科治療認定医	昭和60年
唐澤 幸彦	救急センター長 外科科長	日本外科学会（専門医・指導医） 日本消化器外科学会（専門医・指導医） 消化器がん外科治療認定医 日本がん治療認定医機構（暫定教育医・認定医） 日本胸部救急医学会（評議員） 日本肝胆膵外科学会（評議員）	平成05年
北原 弘恵	外科主任医長	日本外科学会専門医 日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器外科学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器外科学会消化器がん治療認定医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 検診マンモグラフィ読影認定医	平成12年
吉村 昌記	外科医長	日本外科学会専門医	平成16年

5 週間予定

	午前	午後
月	モーニングカンファレンス 検査・回診	手術
火	モーニングカンファレンス 検査・回診	検査
水	モーニングカンファレンス 検査・回診	手術
木	モーニングカンファレンス 検査・回診	検査
金	モーニングカンファレンス 検査・回診	手術